

自立するには5年を要し、特徴を出さないと自立は難しい。

名張市では、2テーマを研修。「ゆめつくり予算制度」は、地域向けの個別補助金を廃止、地域交付金として地域まちづくりのためにと平成14年度から導入したものの。今年度は、14地域、8700万円を交付。地域コミュニティバスや地域での高齢者ライフサポート事業を実施。地域コミュニティバスは、公共バス廃止をきっかけに平日、昼間の生活圏の確保を重視し、4地区、4路線で市の補助300万円で自主運行している。地域の危機感の共有と協力を何より強調されていた。

(石川 正委員長)

総務委員会

7月29、30日に行行政視察を行い、初日は石川県羽咋郡志賀町を訪れた。

視察目的は、2007年に起こった能登半島地震の体験から、わが町の備えを学ぼうとするもの。調査は、能登沖地震の発生時の対応策、被災者の救済策、地震に備える必要施策などだった。志賀町では直接被害にもあつた担当者から各



志賀町役場

種資料を受け取り、詳しい説明を受けた。

被災時は町職員の多くも被害者となり、マニュアルどおりの機能は難しいとのことだった。被災住民の一番の要望は応急処置用のブルーシートだったそう。防災倉庫、各家庭に備蓄の必要性を感じた。「なんといいても体験が行動や対策の源」と臨場感を持って学ぶことができた。志賀町には原子力発電所があるため、防災無線がすでに全戸に配置され、情報発信に役立つと聞いた。

翌日は富山県氷見市の指定管理者制度による病院経営を視察した。目的は、①制度導入の背景・決定判断材料②指定管理者制度で病院存続にどう対応したかなど。

氷見市民病院は、病床数388床の総合病院で、へき地中核

病院に指定されるなど、地域の医療を支えている。平成17年から医師不足の問題により病院経営が難しくなり、次第に危機的状況となった。病院の老朽化も進んでおり、立て替えが迫られる中、公設民営の「金沢医科大学氷見市民病院」がスタートした。

民営化し、病院運営を金沢医科大学が行うことで、医師の確保ができ、単年度赤字4億円以上あつたのが、昨年は一転6千万円の黒字に転換したとのこと。市も病院の赤字を一般会計から繰り出しがなくなり、公設民営化は良い結果となつたという説明だった。「公設」だからこそ、「へき地医療や緊急医療などの地域医療は必ず守る」という点を強調されたのが印象的だった。

(箕浦克巳委員長)



氷見市役所

議会活動報告

全国レガッタで市町村交流



こうまチームの入賞パフォーマンス

さる10月3、4日の2日間、長野県下諏訪町で「第18回国市町村交流レガッタ下諏訪大会」が開催されました。

東郷町からは、8月に開催された町民レガッタで優勝した成年・壮年・熟年の部各男女6クルーと、議員チーム2クルーが参加しました。

この大会は、全国ポット所在市町村協議会が主催するもので、全国各地から人々が集い、ポットを通じ地域間交流をはかるもの。平成4年に福井県美浜町で始まり、東郷町

でも平成15年第12回大会が開催されました。

今年の東郷町からは、成年男子の部に出場した「東郷AGO」の漕手年齢は全員合わせて68歳、議員シニアの部の「東郷町議会B」は計26歳と、出場クルー中、最年少と最年長を輩出し、老若男女が共に協力し合いながらの参加となりました。レースの結果は、8クルーのうち、準優勝を含む5クルーが入賞を果たす健闘でした。「水と緑とポットのまち」である東郷町を全国に発信し、交流を深める意味でも意義深い大会となりました。



乗艇のようす